

資料1 「主よみもとに 近づかん」 (Nearer, my God, to Thee) 讃美歌略解

作成 2023-1-16 岡本雅幸

■ 1. 作詞者

作詞者はセアラ・フラワー・アダムズ(1805 - 48)というユニテリアン派の女性賛美歌作者です。

ある日、ロンドンのユニテリアン教会のウィリアム・ジョンソン・フォックス牧師から、「旧約聖書創世記 28 章 10 ~ 22 節の説教との関連で良い讃美歌が欲しいのだが…」と依頼を受けたことが契機となり、今日のような 5 節からなる不朽の名作が生まれたそうです。(※ 梅染信夫『讃美歌物語 2』)

※ユニテリアン (『新キリスト教辞典』、いのちのことば社 より抜粋)

この名で呼ばれる人々は一定の信条を持たず、信仰内容に多様な面が見られるが、キリスト教正統教理の中心である三位一体とキリストの神性、全的堕落と代替的贖罪をことごとく否定し、自由と理性と寛容とを尊重する点で共通していて、キリストの福音の核心が欠落しています。

■ 2. 作曲者

日本で歌われ、世界で最も広く歌われるメロディーは、アメリカの教会音楽家ローウェル・メースン(1792 - 1872)書き起こされた「ベサニー(Bethany)」が基になっています。他にも「ホーベリー(Horbury)」、「コムニオン(Communion)」、「Propior Deo」があります。(※ <https://ja.wikipedia.org/wiki/主よ御許に近づかん>)

■ 3. エピソード

(1) 1912 年、豪華客船タイタニック号が沈没する際、沈みゆく船上で同船のバンドメンバー(沈没で全員犠牲になる)が演奏したと言われます。(※ <https://ja.wikipedia.org/wiki/主よ御許に近づかん>)

(2) アメリカ人婦人宣教師ジェニー・カイパーが横浜のフェリス女学院院長の時、関東大震災震災当日、面会を終えた卒業生を校門まで送り室に戻ったところで地震に見舞われ、倒壊した校舎の下敷きとなり動けなくなりました。火の手が迫るなか、救出しようとした職員の回想によると、カイパー校長は、「私は主の御心のままに心安くここに永眠します。…早く安全な地に逃れなさい」と述べたとのことです。

(※ <https://magazine.ferris.ac.jp/20220601/15817/>)

(3) 同志社大学の創設者新島襄先生と、止揚学園の創設者福井達雨氏が最も愛した讃美歌です。この事については、梅染信夫著『讃美歌物語 2』に詳しく記されています。)

■ 4. 登場する作品 (※ <https://ja.wikipedia.org/wiki/主よ御許に近づかん>)

(1) 1997 年の映画『タイタニック』をはじめとするタイタニック号の沈没を描いた複数の映画の挿入曲。

(2) テレビアニメ『フランダースの犬』の最終回のクライマックスの BGM。

⇒ <https://ja.wikipedia.org/wiki/土倉富士雄> より抜粋

土倉の信条は「企業でも政治でもあるいは文化活動でも、すべて倫理に根ざした心の豊かさということに立脚していなければならない」ということにあり、経営活動にはそのことがあらゆる場面に反映されていた。ムーミン、アルプスの少女ハイジ他カルピスがスポンサーであったフジテレビ系列のカルピスことも劇場シリーズには、土倉自ら積極的に関わりフランダースの犬では全話の脚本をチェックしただけではなく、最終回のシーンでは自ら具体的な演出や使用音楽の指示を出すなどしていた。

(3) アニメ映画『銀河鉄道の夜』でタイタニック号をモチーフにしたと推定される沈没船の場面でコーラスバージョンが挿入される。宮沢賢治の原作では、草稿にこの曲の歌詞を記した箇所が存在する。

- (4) テレビアニメ『赤毛のアン』のマシュウ・カスバートの葬式の挿入歌。
- (5) 漫画『天を見つめて地の底で』の第2部「果てしなき航海」でバンドメンバーがタイタニック号と運命を共にすることになった乗員乗客のために演奏していたが、遂に船が沈没する直前に賛美歌「主よ御許に近づかん」が船内に流れた。
- (6) 『男はつらいよ 寅次郎純情詩集』(シリーズ18作目)マドンナ柳生綾(京マチ子)の葬儀において教会で参列者が歌う。
- (7) 映画『マチネの終わりに』(2019年日本映画)で、ギタリスト祖父江先生の葬式の挿入歌。

■ 5. タイタニック号“伝説” (※ [https://en.wikipedia.org/wiki/Nearer, My God, to Thee](https://en.wikipedia.org/wiki/Nearer,_My_God,_to_Thee))

遭難事故の生存者と話をした救助船のバンドマスターはこう記しています。「緊急時の船のバンドは、乗客を落ち着かせるために演奏することが期待されています。タイタニック号氷山衝突後、バンドは明るい音楽、ダンスミュージック、コミックソングを演奏し始めました。乗客がパニックに襲われるのを防ぐものなら何でも…。」しかし、遭難事故生存者の報告は様々で、船の弦楽アンサンブルが賛美歌を演奏したとか、最終奏曲は「Nearer, my God, to Thee」だったとの主張がある一方、文書でそれを強く否定した生存者もいました。さらに、1906年にカナダの海岸沖で沈没した船の乗組員と乗客によって「Nearer, My God, to Thee」が歌われていたことがタイタニック号伝説の源である可能性もある、とされています。

■ 6. 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の草稿に記された歌詞を推察する

宮沢賢治(1874 - 1888)の『銀河鉄道の夜』は、1924年ごろに初稿が執筆され、晩年の1931年頃まで推敲が繰り返された後、1933年の賢治の死後、草稿の形で遺されました。それでは、そこに書き残されたという「主よ、みもとに」の歌詞はどんなだったかを、[<https://ja.wikipedia.org/wiki/銀河鉄道の夜>]と、梅染信夫著『讚美歌物語2』かを推察してみました。

この讚美歌は、1874年(明治7年)4月に出版された「摂津第一基督公会(現在の教団神戸教会)の歌集」の中に原形とみられるものがあります。

我の神に近づかん
よしや憂に忍びなん
われ歌ふべき吾の神に
近付かましともならん (第2節以下省略)

そして、1888年に出版された『新撰讚美歌』に、この讚美歌の古い訳が載っています。

わがみかみに ちかづかん
のぼるみちは じふじかに
ありともなど かなしむべき
わがみかみに ちかづかん

この讚美歌の邦訳はこのような変遷を経て、昭和6年版讚美歌(1931年、讚美歌1954年版の旧版)から今日の「主よ、みもとに近づかん」となりました。

従って、宮沢賢治の草稿に書かれていた「主よ、みもとに近づかん」の歌詞は、年代的に1888年出版『新撰讚美歌』の歌詞と思われます。

以上